

雪崩分科会レター

№ 0 . 1 (1987年9月)

日本雪氷学会雪崩分科会

川田邦夫気付



雪崩分科会例会のご案内

ご承知の通り、日本雪氷学会昭和62年度全国大会は北海道釧路市で10月4日～8日に開催されます。プログラムによればポスター発表は6日(火)、<積雪・雪崩>の口頭発表は7日(水)午後になります。分科会例会は下記のように行います。お誘い合わせご参加下さい。

日時： 昭和62年10月6日(火) 午後3時30分～6時

会場： エイトビル・雄阿寒の間(全国大会の主会場・釧路パシフィックホテルの向い)

分科会総会の後、表層雪崩についての話題提供があります。

- 1 表層雪崩の発生 . . . . 遠藤八十一(林業試験場十日町試験地)
- 2 表層雪崩の衝撃力 . . . . 川田邦夫(富山大学理学部)
- 3 表層雪崩の運動 . . . . 前野紀一(北海道大学低温科学研究所)
- 4 新潟県における表層雪崩の事例  
. . . . 町田 誠(町田建設株式会社)



ふりがな 中島 祥  
氏名 : 中島 祥  
連絡先 :

サハリン石油開発協力株式会社

<自己紹介+メッセージ>

分科会レター作成、ご苦労様です。  
昭和46年?福島での雪氷学会大会時に、  
故、荘田幹夫氏を囲んで「雪崩人間」が集まり  
懇話したのがルーツになるかと思いますが、  
くわが今日この雪崩分科会という立派な会に  
発展したことは誠に嬉しく、今、向雪崩懇話会  
として、継続発展と努力された新田さん、秋田さん  
をはじめ、関係者の方々へ感謝したいと思います。  
私は、最近、仕事で都合上、雪崩でだけでなく、海水  
の問題と取り組んでいます。近々、再び、  
雪崩の分野で、経験を生かした仕事をやりたい  
と考えています。  
雪崩から離れていまして、常に「雪崩人間」として  
自覚を持ち、続けているつもりです。よろしく  
お願い致します。

ふりがな 小野寺 弘道  
氏名 : 小野寺 弘道  
連絡先 :

林業試験場東北支場  
多雪地帯林業研究室

<自己紹介+メッセージ>

目下、雪と森林・林業に関する仕事をして  
います。東北ではこのところ、ブナの伐採の  
是非をめぐるいろいろな動きがあります。  
雪の多い奥地ではブナがどんどん伐採され、  
その跡地にスギが植えられています。うま  
く育たないばかりか、いたるところで全層雪  
崩が発生し、林地が雪崩によって破壊される  
『雪食地』が目立ってきています。今年から  
これの実態把握にも取り組んでいます。  
雪食は林地の雪害として防災研究の対象に  
なるだけでなく、雪の地形形成営力として地  
形学の対象にもなっている興味深い現象です。  
会員の皆様のフィールドで、このような雪  
食の事例がございましたら是非情報をお寄せ  
ください。

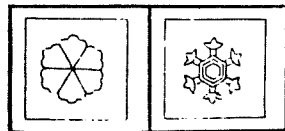
ふりがな 石塚 賢吉  
氏名 : 石塚 賢吉  
連絡先 :

日本サミエン(株)

<自己紹介+メッセージ>

わが社は「自然は気まぐれ……でも仲良かった」  
をキャッチフレーズに、雪崩、土石流、落石等の  
自然災害に対応する防災工場の専門業者です。

雪崩は発生から流下とに衝突に至るまで  
分っているようでよく分らない。古くて新しい  
研究課題です。学術的には部分々  
で解明されているものの実際に応用し  
ようとするとむずかしい。……  
そのような研究をベースに一貫した工学的  
まとめをして欲しいものです。理論を  
実用化できるよう。



ふりがな 山崎 裕利  
氏名 : 山崎 裕利  
連絡先 :

<自己紹介+メッセージ>

会費未納の催促を受け、誠に申し訳ありません。早速、郵便  
為替で納入しましたので、よろしく願います。  
私は、東京電力で送電鉄塔の設計技術を長年にわたって担  
当しています。  
送電線と雪氷とは縁が深く、我が国に送電線が出現した  
当初から、我々の大先輩が雪氷との闘いをはじめ、苦勞を  
重ねながら、送電線に関する耐雪氷設計技術を蓄積し、今  
日の土台を築き、我々に継承しています。  
そして、現在も雪国での送電線建設が続いており、その規  
模は、一段と大型の傾向を辿るようになるとともに、その  
重要性は一層強まりつつあります。一方低廉な設備形成の  
要請が高く、我々関係者は、コストダウンを図るための工  
夫と信頼性の高い設備を建設するための努力を重ねてい  
ます。  
特に東京電力では、LHV 送電線の建設を計画していますが  
その一部は、高標高豪雪山岳地帯をします。我々鉄塔  
を担当する者は、その地域に建設する鉄塔を雪崩の起こら  
ない位置に選ぶことを前提に、そして斜面積雪移動圧、沈  
降圧に耐えられる設備とするため現地で各種観測を精力的  
に進めてデータを収集し、その結果をもとに適切な設計指  
針を取り纏めるため頑張っています。

ふりがな しでいっつひて

氏名：四手井 潤英

連絡先：〒 [redacted]



若い人々に学会の運営をしていただくつもりだったのに、会長だけ老人が残ってしまいました。今しばらくよろしくお願いします。もう古い話になりましたが、稚内市の裏山に高橋喜平さんのアイデアでなだれ防止の土塁を造りました。それは今でもうまく行っているらしいです。また、東海道線からよく見えるのですが、滋賀県の伊吹山東南面の大斜面に大きななだれが出て、下の村をおびやかすので、ものすごく長い階段工を何本か入れました。所が下の村がなくなってしまい、何の役にも立たなくなりました。階段工だけは、はっきり残っています。いつも無駄金をつかったような気がして仕方ありません。

ふりがな よしの まさし

氏名：吉野 正敏

連絡先：〒 [redacted]



筑波大学地球科学系

雪崩の局地性、特に積雪分布の局地性、雪崩発生原因の局地性に興味があります。コーサカスで見たモスクワ大学の研究者達の研究が、小生の研究分野である「小気候」と非常に深くかかわっていたのが印象に残っております。このような世界の研究の展望をお教えいただければ、まことに幸いです。

ふりがな いしかわ 政幸

氏名：石川 政幸

連絡先：〒 [redacted]

ふりがな あべ 政幸

氏名：阿部 修

連絡先：〒 [redacted]

国立防災科学技術センター  
新庄支所

この3月に林業試験場を定年退職し、財団法人 林業土木施設研究所へ研究顧問として週2回行っております。新しい職場では、山形会場以来、比較的多く手がけてまいりました雪崩関連の仕事を中心としてやることになると思います。

(はるかに、管理職的なことで忙しかったので、改めて勉強の仕直しを(なければと方々へおりましたときに、分科会で表層雪崩の問題と取り上げていたたい大変喜んでおります。

発表された論文など(お礼)いたすければ幸いです。

〈自己紹介+メッセージ〉

当支所雪害防災第一研究室に所属。雪崩実験シユート(勾配30度固定、斜面幅1m、長さ20m)を用いて、衝撃力の測定を実施中。その他に気象・積雪観測や屋根雪問題に取り組んでおります。

雪崩分科会の会計幹事を仰せつかりました。明解な会計を心がけます。

松田益義・西村 寛



〒

M T S 雪氷研究所

柵口雪崩のシミュレーションを昨年来やっております。雪崩後に建設された誘導壁の効果についてのシミュレーションは終わり、目下、集落直上に建設された減勢施設のシミュレーションを行っている最中です。できましたら今秋の例会で私共の算出結果も御討議頂けましたら幸いです。おもしろい結果が出つつありますので。

ふりがな

氏名 :

大沼 匡之 はなぬま けんいち

連絡先: 〒



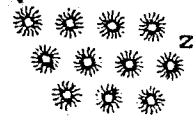
学会のシーラカンスです。既に秒読みの段階に入りましたが、雪崩には興味深々。その深さを知って冥土のみやげにしたいものだ。若い時、利根川源流より尾瀬の笠ヶ岳に登り、帰りはいい気になりスキーを飛ばしてルートをちがえて別の沢に入ってしまった。登り直すのがおっくうで枝沢もコンター沿いにトラバースして基地に戻ったが、夜中になってしまった。最後の降りは広い開地。3月末のぬれざらめ雪の急斜面。スキーで切ればなだれるかも知れぬと思ながらも滑り出し、20mも行かぬうちなだれ出し、足払いを食って転倒。もがきながら100mもまかれ、肩まで埋まったが、片手が出ていたのではい出して生還。オボロ月にモモンガーが飛ぶ夜だった。

ふりがな

氏名 :

新藤 昭郎 しんとう しょうろう

連絡先:



### 新潟大学農学部

私はかねがね雪崩が生じている所をこの目で見たいと思っておりました。十年ほど前に山形大学の演習林で一人で歩いていると嶺筋から雪の塊が落ちてきました。さてこそ雪崩かとカメラを構えた所、コロコロと20mほど転がって止まってしまいました。残念でした。しかし、昨春、柵口なだれの現場に行きました時、権現岳の方で轟音が聞こえ、私どもは鉄道のガード下に居る気分でした。まぎれもなく雪崩が見えました。それは黒い雪崩でした。ようやく積年の念願が叶ったのですが発生地点まで1,000mと遠かったことが多少の不満を残しました。

沢山のお葉書を寄せて頂きどうも有難うございました。残りは次号に紹介の予定です。

雪崩関係文獻記事の検索 (1) 砂防関係

- 吉岡良朗：なだれによる侵食の防止について 新砂防37-4, p.33-34, 1984.11.  
建設省土木研究所・新潟県土木部砂防課：新潟県柵口地区の雪崩災害（速報）  
新砂防38-6, p.34-36, 1986.3.
- 江口正紀・石川 満・田畑邦雄・本白 茂：黒又沢砂防ダムの雪崩災害について  
新砂防39-6, p.18-23, 1987.3.
- 中俣三郎：雪崩対策研究の歴史 新砂防40-1, p.32-38, 1987.5.
- 山田 穣：最近の雪崩の理論とシミュレーション 新砂防40-2, p.37-42, 1987.7.  
「昭和61年度砂防学会研究発表会概要集 1986.5.」
- 野沢英之助・藤原 明・長谷川一成：柵口雪崩災害について p.270-273
- 中西 宏・仲野公章・右近則男：柵口（新潟県能生町）雪崩の運動のシミュレーションについての検討 p.274-275
- 中西 宏・浅井涌太郎・仲野公章・下村忠一：模型斜面による雪崩防護工の雪崩実験 p.276-279
- 新田隆三：雪崩による堰堤破壊 p.280-281
- 岩元 賢：多雪山地における山地荒廃の発生機構に関する研究(1)-実態調査-  
p.310-313  
「昭和62年度砂防学会研究発表会概要集 1987.5.」
- 藤原 明・野沢英之助・長谷川一成：早川水系の災害危険マップ p.174-177
- 竹淵仁一・浅井涌太郎・寺本和子・工藤賢二：雪崩減勢工に関する模型実験  
p.270-273
- 北原一平・寺本和子・工藤賢二・小林一三：雪崩氾濫シミュレーション（柵口  
災害を例として） p.274-277
- 中西 宏・浅井涌太郎・下村忠一：離散ボールモデルによる雪崩運動のシミュレーション p.278-279
- 下村忠一・石平貞夫・酒井洋一・中島久男：雪崩予防施設の雪圧特性に関する調査 p.280-283
- 新田隆三：アルプス諸国の雪崩予防柵 p.284-287
- 雪崩対策研究会編著・建設省河川局砂防部監修：雪崩とその対策 p.p.208  
全国治水砂防協会発行、¥2800. 1986.12.